

18 国際バカロレア・プログラムにおける教科外活動の位置づけと評価方法に関する研究
研究代表者 河合 久（教育課程研究センター基礎研究部 総括研究官）

①研究の趣旨，ねらい

国際バカロレア（IB）のプログラムには3つのプログラム（初等課程プログラム、中等課程プログラム、ディプロマ・プログラム）があるが、本研究は、ディプロマ・プログラム（DP）の教科外活動の位置づけと評価方法に焦点を当てた研究である。DPは高等学校の最終2学年間に履修するプログラム（カリキュラム）で、2005年2月現在、116か国、1,233校が実施している（実施するには国際バカロレア機構から認定される必要がある）。

DPの教科外の活動である「知識の理論（Theory of Knowledge）」、「創造性・活動・奉仕（Creativity, Action, Service）」、「課題論文（Extended Essay）」は、ディプロマ資格取得のための要件である。国際バカロレア機構（IBO）が提供している資料、一般研究図書、及び訪問調査により、これらの特色ある教科外活動の詳細を明らかにした。

②研究成果の概要

- 「課題論文」は、教科での学びと関連したことをテーマにして4,000語以内（日本語の場合は8,000字以内）で書く必要がある。内部評価と外部評価がある。一般評価基準と教科評価基準に基づいて評価される。これらの基準は生徒にも公開されている。
- 「知識の理論」は、指定された10の課題の中から一つを選び、1200語から1600語で書き上げる。内部評価と外部評価がある。学校での内部評価では、生徒は学習内容のプレゼンテーションを行い教師が評価する。
- 「課題論文」と「知識の理論」の評価は、それぞれA～Eで評価される。ともにAの評価を受けた場合、3点のポイントが生徒に与えられる。マトリックスが用意されていて、それぞれの評価の組み合わせに応じたポイントが決められている。ディプロマの評定は、科目による評定（6科目あり、それぞれ7段階からなる）と「課題論文」と「知識の理論」の組み合わせによる評定（最大で3ポイント）からなる。最高点は45ポイント。
- 「CAS」は、2年間にわたり、創造性、活動、奉仕のそれぞれについて50時間ずつ（合計150時間）実施する。外部評価はない。学校が認める監督者によるパスしたかそれともパスしなかったかという評価である。各学校は生徒の成績を地域事務所（日本のIB

校はシンガポールにあるIBAP) に送付する。CASの活動と評価については、地域事務所が主な監督責任を果たしている。

- 高校のプログラムでありながらDPの教科を大学の単位として認めているところが多い。二重単位 (Dual credit) としての扱いである。米国においては、公立学校がIBプログラムを導入・実施する場合でも連邦政府や州政府の財政面での支援があり、IB認定校は増加している。課題は、急成長の中、継続して質の高い教師をいかに確保するかである。

③中期目標との関連性

- 教育の内容や方法、その効果の把握に関する調査研究の実施
- 教育制度や教育活動等に関する先導的な調査研究や国際比較研究の実施

④今後の研究予定

- 米国における高大接続プログラムの実態に関する研究－単位の取得と活用を中心に－

⑤キーワード

- (1) 国際バカロレア (2) 課題論文 (3) 知識の理論
- (4) CAS (5) 評価 (6) AP

⑥本研究の研究報告書

- 国際バカロレア・プログラムにおける教科外活動の位置づけと評価方法に関する研究 (平成19年3月)

⑦関連する先行研究や参考となる研究等

- Diplonm Programme Vade Mecum, International Baccalaureate Organization, 2005
- Supertest: How the International Baccalaureate Can Strengthen Our Schools, Jay Mathews, Ian Hill, Open Court, 2005
- Learning and Understanding: Improving Advanced Study of Mathematics and Science in U.S. High Schools, National Research Council, 2002
- Diploma Programme assessment Principles and practice, International Baccalaureate Organization, 2004